

# なでしこ通信 第 44 号

《隔月発行》

## — 目 次 —

- ★今、親学が求められるわけ  
明星大学教授 高橋 史朗
- ★第 3 回研修会のご案内  
歴史から学ぶ日台の絆  
講師 古川 勝三 氏
- ★第 2 回研修会のご報告
- ★ごあいさつ  
会長 青井 美智子
- ☆事務局から

## 今、親学が求められるわけ ■ □

明星大学教授 高橋 史朗

### ■教育の原点は家庭

長年、教育学の研究者として学校現場の問題にかかわってきましたが、学校教育だけでは子どもの変化、親の変化、社会の変化に対応できないと思いました。

小学校に入ってもみんなと一緒に席につけない、勝手に教室内を歩き回るといったいわゆる「小一プロブレム」も起きていましたから、入学以前にさかのぼって子どもたちの変化を見ていく必要があると思いました。教室で、先生の指示に従えない子どもの中には、社会対人関係能力や自己制御能力の未発達、つまり共感性の欠如や我慢できない様子が見られました。これらは乳幼児期から家庭で育まれるべきものです。



子どもの問題のほとんどは親の問題でした。親は子育てに自信がない、どうしていいかわからないという。親になったとき、どうして子育てをしたらいいのかを教えてくれる人はいませんでした。教育や保育の専門家を育てる学問と同様に、親を育てる学問が必要だと考え、「親学」を提唱しているのです。

## ■成長に応じての関わり方

親が理想を押しつけてその通りに育つなら苦勞はありません。「学ぶ」とは「まねぶ～まねをする～」こと。「習う」とは「繰り返してなれる」こと。子どもはもともと身近な親をまね、親の生活態度に慣れていきます。親自身が理想通りに生きていないのに、子どもにだけ理想的な子になれといっても無理な話です。子どもの成長を促す一番の近道は、親自身が変わることです。子育てに悩んだら、子どもの見方を変え、子どもへの関わり方を変えてみましょう。

「親が変われば、子どもも変わる」というのが「親学」の基本です。子育ては親から子への一方通行ではありません。**親が変わる、とは親が子どもを通じて学び、親として成長することなのです。**

日本には昔から「しっかり抱いてそっとおろして、歩かせる」という子育ての本質をついた格言があります。何もできない赤ちゃん時代はすべてを受け止めて、自意識が芽生えてくるころは、見守りながら地に足をつかせ、自立を促しながら一人で歩かせる。親は「抱くとき」「おろすとき」「歩かせるとき」を間違えずに関わらなくてははいけません。しっかり抱く時期に放っておいたり、自立していく子の手をいつまでも離さずにいたりするのは、子どもの成長を妨げていることにほかなりません。幼児期に大切なことは、子どもの存在を全面的に受容することです。そこから自己肯定感が育まれ、他者への共感が芽生えます。一方で我慢する力、頑張る力をつけるために壁になる関わりも必要です。

全面的に受容する愛を「慈愛」、壁になる愛を「義愛」とよびます。

## ■幼児期に自然体験を

小学生と合宿に出かけた時のことです。

満天の星空を見上げて「空にじんましんができてみたいで気持ち悪い」と言った子がいました。満開の桜の下でもゲーム機から顔を上げない子、草むらの虫の鳴き声が雑音にしか聞こえない子、美しいものを美しいと感じない子が出現しています。

生物学者レイチェル・カーソンは、その著書の中で「子どもの心と感性を育てるには、

目に見えないものを美しいと感じ、喜びを分かち合う大人が子どもの周りに一人いればいい」と述べています。親がその「一人」になればいいと思います。一緒に体験をして感動を共有することが、子どもの感性を育てるのです。そのためにはまず、親自身が感動する心を取り戻す必要があります。

## ■育自と共育

育児とは「育自」であり、教育は「共育」です。親自身ため、すぐできることを挙げておきましょう。

### ◎ポジティブ思考でいこう

「逆上がりができない」「うるさい」ではなく「鉄棒ぶら下がれた」「今日も元気だ」です。

### ◎観の転換

どんな子でもわが子はかわいいと思う心に気づけば、それまで悩んでいたことがウソのように思えます。

### ◎人格と行為の区別

「ホントだめな子ねえ」「そんな子、きらい」など人格を否定するようなことを言うてはいけません。「お友達をぶったらだめよ」「おもちゃをなくさないで」など具体的な行為に対して注意しましょう。

### ◎ほめる親になる

一日三回子どもをほめてみましょう。子どもの「いいところ探し」を日課にして下さい。そのうち癖になって子どもの長所がたくさん見えてきます。

### ◎親自身の夢を

子どもに言う前に親自身が夢を持ちましょう。夢があると、そのために何をすべきかが見えてきます。目標が見えてきたら直面する課題が見えてきます。「いつかは」ではなく「いつまでに」を決めることです。

めざす会第10回講演会  
高橋史朗先生 なぜ今 親学か～親育て支援の最新動向～  
平成24年3月4日(日) 10時～12時 開場 9時半  
砥部町文化会館 大会議室 入場料1000円 学生無料

(前号の予告とは日時が変わっています)

## 第3回研修会のご案内

### 『歴史から学ぶ日台の絆』

日時：4月1日（日）13:30～16:00（開場13時）

会場：砥部町文化会館 3階 視聴覚室

講師：古川勝三（かつみ）先生（元中学校長）

入場料：1000円（茶菓・資料代） 学生：無料

★当日参加もOKですが、なるべく3月31日（土）までにお申し込みを。

## 第2回研修会のご報告

### 『家族の絆 ～拉致問題を考える～』

文科省通達により全ての学校に、拉致のアニメ『めぐみ』が配布されているはずですが、それを生徒・児童が見た形跡がほとんどありません。身近な小中学生に「学校で見せてもらった？」と聞いていただき、その結果と【学校名】【学年】を事務局までお寄せ下るとありがたいです。学校では4月に年間指導計画が組まれます。教育委員会に人権教育でちゃんと拉致がとりあげられるように働きかけを致したく思います。なお、『めぐみ』はTSUTAYAでは無料レンタルしていません。

拉致は主権侵害とは思わないと言った某市教育委員会の職員や、「横田夫妻は娘のお陰で有名になれた。子供を帰して欲しかったら北朝鮮にも日本の政治家にも頭を下げて頼め。経済制裁せよなど政治に口出すな」と言った某市の住民代表、

### 愛媛新聞の紹介記事

#### 拉致問題解決へ声を

砥部で  
研修会  
関係者ら意見交換

「家族の絆」拉致問題を考える」をテーマに、北朝鮮により拉致された疑いのある県内特定失踪者大政由美さん（当時23）の母悦子さん（70）と伊予市下吾川川ら、拉致問題に関わる3人を講師に招いた研修会が7日、砥部町宮内の町文化会館

「健康な男女共同参画社会をめざす会」（青井美智子会長）が主催し14人が参加した。悦子さんは「娘が生きていてくれることだけを信じて頑張っている。特定失踪者の家族として命ある限り声を上げ続けたい」と訴えた。大政由美さん連絡会の重松国石会長（77）は「同市八倉は」（歳月の経過で）拉致問題解決へのムードが薄らぎ、無関心になっていくのではないかと不安を吐露。北朝鮮による拉致問題を考える愛媛県民会議（救済会愛媛）の中矢民三郎会長（74）は「解決を図るために政治の力が必要。愚直に運動を続けていくしかない」と述べた。座談会もあり、参加者からは「政府を動かすのは国民の力」との声や、中高生らを対象にした啓発活動の重要性を指摘する意見が上がった。

（杉本賢司）

区長会長の暴言など、記事にはならないショッキングな話も出ました。

座談会では県庁で拉致問題の窓口になっている長寿介護課に関する疑問が出ましたので、11日、担当者にお聞きしました。“全国で窓口はバラバラで愛媛県はこの課が中国から帰った人の援護事務をしている関係から拉致問題も扱うことになった。仕事は国からのお知らせを行政に伝えること。予算はなく、12月16日に県庁で行われた研修会も議連や救う会が費用を負担した。『めぐみ』の配布上映には関わっていない”、とのことでした。

## □■ごあいさつ

会長 青井美智子

明けましておめでとうございます。

3月4日（日）に開催いたしますめざす会第10回講演会「なぜ、今親学か」は将来、「親学基礎講座」に、さらに「親学アドバイザー講座」へとつないで親学の推進につとめて参ります。

現役の子育て世代の方も、もう子育ては終わったと思っておられる方も、親学を学んで、お子さまやお孫さん、また、地域の子育てに貢献しましょう。

自分が変わることによって、相手が変わり、地域が変わり、社会が変わる。そうして国を変える力となりましょう。

本年もよろしくお願い申し上げます。

### DVD鑑賞会

442日系部隊～アメリカ史上最強の陸軍～

平成24年1月29日（土）10:00～11:40

砥部町文化会館3階視聴覚室

.....\*\*\*\*\*.....

名誉のために命を賭け、栄光と偏見に挑んだ65年目の真実  
兵士たちの最後の証言で綴るドキュメンタリー

## ◇◇◇ 事務局から ◇◇◇

◆前号で高橋先生の講演会「なぜ、今親学か」は3月3日とご案内致しましたが、4日（日）の10～12時に変更しております。高橋先生は超ご多忙のスケジュールの中から松山にお越し下さいます。よい講演会になりますよう、会員各位のご協力に感謝申し上げます。

- ◆昨年12月、渡部浩三氏（重要文化財渡部家住宅保護財団理事長・まつやまを考える会代表）が顧問に、越智千恵美さん（(株)オチテッキ代表取締役社長）が幹事に就任して下さいました。めざす会の活動も益々充実して参ります。ご期待下さいませ。
- ◆第1回研修会のテーマは、東日本大震災における自衛隊の活躍でしたが、当会幹事で育鵬社教科書の執筆者・大津寄章三先生が「海南 e タイムス」に掲載された教科書採択に関するご文章を許可を得て同封致しました。
- ◆啓発 DVD「私たちは何故、気付かなかったのか！」（30分）をご家族やお友達と観ていただけませんか。ご検討いただける方はご連絡下さい。
- ◆椿祭り（1月29日～31日）での救う会の活動にご協力下さい。めざす会の当番は、1月30日（月）正午から14時でございます。
- ◆毎月3～4回、月曜日にランチ学習会をしております。お気軽にご参加下さい。
- ◆年会費（1000円）の切れる方に払込取扱票を同封しております。会員1000名をめざしており現在775名でございます。
- ◆研修会番外—DVD「442日系部隊～アメリカ史上最強の陸軍」鑑賞会  
1月29日（日）10：00～11：40 砥部町文化会館3階視聴覚室 カンパ1000円。

## 健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒790-0931 松山市西石井1-3-30

ホームページ <http://www.mezasukai.com/> 電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

メール [michikoaoi25@yahoo.co.jp](mailto:michikoaoi25@yahoo.co.jp) (件名を明記してください)